



筑紫女学園大学リポジット

Possibilities of Evaluation and Support of the Anxious Children at the Nurture Places

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牧野, 桂一, MAKINO, Keiichi メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/105

保育現場における気になる子どもの評価と 保育支援の在り方

牧 野 桂 一

Possibilities of Evaluation and Support of the Anxious Children at the Nurture Places

Keiichi MAKINO

はじめに

近年、保育現場において保育者の間で「気になる子ども」という言葉がよく聞かれるようになってきた。ところが、「気になる子ども」とはいったいどのような子どものことをいうのかについて、保育現場において一人一人の保育者が、これまできちんと系統立てて考えることはあまりなかったように思う。したがって、「気になる子ども」ということが話題になっても、その子どもがどのような状態であるのか、また、その子どものどこがどのように「気になっているのか」ということについては、漠然としていたり、個人的にとらえていたりという段階に止まっており、日常の保育における具体的な評価や支援の方法までには、議論が進んでいないのが現状であった。

このような中、平成21年度には、保育所保育指針が改定され、「一人一人の子どもの発達に応じた保育」の大切さがこれまで以上に重要視されるようになってきた。そこで「気になる子ども」の「一人一人の保育ニーズ」を基本にして、保育所保育指針に示されている発達の段階をきちんと踏まえてアプローチすることを考えていくことにした。

本研究では、はじめに、保育現場において「気になる子ども」を保育者一人一人がどのように受け止めているのかということを実態調査して、分類を試みた。次に、その分類に従って、子どもの評価をどうするかを考え、保育者が同じ基準で評価できる子どもの発達チェックリストを開発した。さらに、そのチェックリストを活用して、子どもたちの気になる内容を明らかにしていった。最後に、そのような「気になる子ども」に対する保育現場での支援方法を明らかにした。

I 研究の進め方

研究を進めるに当たっては、筆者が平成20年より「保育現場における気になる子どもの評価と支援」というテーマの講演会・研修会の講師や助言者として関わってきた大分県保育士会、宮崎県保育士会、福岡県保育士会、熊本県保育士会、佐賀県保育士会、大分県私立幼稚園連合会、長崎県私立幼稚園連合会等の研修会に参加している保育士や幼稚園教師に対して、「気になる子どもの事例」

として「気になる保育の内容と当面している課題」について自由に記述してもらった1118項目について分類整理していった。

それらを基に大分市の滝尾大南地区にある11園の保育園の主任会が、平成20年度から、21年度にわたり、「気になる子どもの保育の充実」という共通テーマを設定して研究を進めていくことにした。そして、それを園内研究にも位置づけ、「気になる子ども」の具体的な評価の方法としての子どもの発達チェックリストの開発やその評価に基づいた具体的な保育支援の方法を探っていった。

研究の進め方としては、保育現場の当面する課題に重点を置くために、11園における「気になる子ども」の具体的な事例を持ち寄り、2カ月に1回、その事例について発表し、検討を重ねてきた。

事例研究の中で整理されてきた「気になる子どもの類型別のチェックリストと活用方法」を筆者が、地区全体の学習会で発表し、共通理解を図ると共に研究方法と研究の手順を明らかにしながら、現場の課題に直接答えるという形で研究を進めていった。

実際の研究推進に当たっては、大分市の滝尾大南地区保育士会全体で進めるには、物理的にも時間的にも制約があるので、集約的に研究を行う代表園を指定し、この園において筆者を中心とした園内研修会を月2回の割合で行い、研究テーマの絞り込みと研究テーマに対する仮説の設定、及び仮説の検証を園全体で行ってきた。

そして、代表園で積み重ねてきた研究成果を、共同研究園10園に対して地区での主任会などを通して必要に応じて還流しながら、研究を進める上での課題や問題点を探り、研究仮説の見直しと実践による検証を積み重ねてきた。

代表園より提案を受けた共同研究の内容が11園で共有出来る段階に達したところで、子どもの発達チェックリストの作成や「気になる子ども」の類型など、研究を推進していく上で重要な内容について中間的な研究のまとめを行い、子どもの評価に基づいた保育支援の方法がうまくいくかどうかをそれぞれの園で検証していった。そして、その結果を共同研究園の研究同人に対して発表し、論議を重ね、それぞれの園で活用できるように報告書にまとめて共有化し、実践を深めていった。

Ⅱ 気になる子どもをとらえる視点と評価

保育現場における「気になる子ども」の事例をもとに、その原因を分類し、次に示すような4つの柱を立てて整理することにした。

1 発達のつまずきが気になる子ども

平成21年度実施の保育所保育指針においては、発達区分が明確に記されているので、共同研究園では発達区分を重視した保育課程を作成している。「気になる子ども」の一部については、その子どもの年齢相応の発達が来ていないために発達段階を重視して作成した保育課程の内容に対して、その内容が難しすぎたり、高過ぎたりして、課題に取り組めなかったり、集団の中に入れないなどのつまずきをおこしているということが、明らかになってきた。そこで、それぞれの年齢に応じた発達過程でのつまずきを総合的にとらえるため、子どもの発達チェックリストを改善して、資

		教育				
	健康(運動)	人間関係	環境	言葉(話す)	言葉(理解)	表現
【遠城寺式】 1歳	座った位置から立ちあがる 走るなどの移動運動をする 【遠城寺式 1歳6ヶ月】 足をそろえて階段をあがる 【遠城寺式 1歳9ヶ月】	父や母の後追いをする 身近な人の仕草や行動を模倣する 【津守式 1歳6ヶ月】 自分より小さい子がわかっている 【遠城寺式 1歳9ヶ月】	物をひっぱったり遊ぶ 拍手をまねる 近くで遊ぶ友達や大人に近付き、遊ぶ 物の出し入れをする 道具や玩具の使い方、遊び方がわかる	言葉を1~2語、正しくまねる 3語言える 【遠城寺式 1歳4ヶ月】 絵本を見て三つものものを指し示す 【遠城寺式 1歳9ヶ月】	要求を理解する 簡単な命令を実行する 【遠城寺式 1歳4ヶ月】 目、口、耳、手、足、腰を指し示す 【遠城寺式 1歳9ヶ月】	なぐり書きをする 音楽に合わせて体を動かしたり、手遊びをしたりする つまむ、たたく、転がすなど、手や指を使って遊ぶ
おおむね 2歳	登る、押す、ひっぱるなど全身を使った遊びができる ボールを前にける【遠城寺式 2歳0ヶ月】 両足でびよびよん跳ぶ【遠城寺式 2歳3ヶ月】	友達の名前がわかり呼んだりできる 友達のお世話をしたがる 自分で出来ることは自分でしようとする	自分の物と他人の物の区別がつく 保育者と一緒に玩具の片づけをする 歯をみがくまねができる 【発達チェック 2歳2ヶ月】	二語文を話す 【遠城寺式 2歳0ヶ月】 絵本を見ながら繰り返してある言葉の真似をして言える 自分の名前を言える 【遠城寺式 2歳6ヶ月】	「もうひとつ」がわかる 【遠城寺式 2歳0ヶ月】 大きい小さいがわかる 【遠城寺式 2歳6ヶ月】 長い、短いがわかる 【遠城寺式 2歳9ヶ月】	水、砂、土などの自然の素材を使って遊ぶ 歌ったりリズムに合わせて体を動かしたり遊ぶ 見立てた物を使って遊ぶ 誰かのふりをしたりして遊ぶ
おおむね 3歳	でんぐり返しをする 【遠城寺式 3歳4ヶ月】 ボクタンをはめる 【遠城寺式 3歳4ヶ月】 両足をそろえて前にどぶが 【遠城寺式 3歳8ヶ月】	「こうしていい?」と許可を求める 【遠城寺式 3歳4ヶ月】 こっこ遊びを楽しむ 【津守式 3歳6ヶ月】 遊具、用具を順番に使う	自分の物と他人の物の区別がつく 簡単な決まりを守る 屋外の決められた場所での遊ぶ 【発達チェック 3歳3ヶ月】	挨拶や返事など日常生活での言葉のやりとりが自由なうでできる 「なぜ?」として「など」の質問を盛んにする 簡単な伝言ができる	赤、青、黄、緑がわかる 【遠城寺式 3歳0ヶ月】 高い、低いがわかる 【遠城寺式 3歳4ヶ月】 数の概念が分かる(3まで) 【遠城寺式 3歳8ヶ月】	動物や乗り物などの動きを模倣する 自分の好きなものになりきって遊ぶ 砂を使って型抜きをしたりお山をつくったりして遊ぶ
おおむね 4歳	片足でけんけんをする 【津守式 4歳0ヶ月】 ブランコに立ちのりする 【遠城寺式 4歳4ヶ月】 タオルや雑巾をしぼることができ	保育者や友達の見聞を聞く 自分のしたいことをはっきり言う ジャンケンで勝負がわかる	色々な用具や器具に好奇心を持ち、大切に扱う 季節や天候による遊びの違いを知る 信号を見てもちろん道路を渡る事ができる	身の回りの出来事や自分の思いを言葉に出して言う 文字、数字に興味を持ち、読み、書きをする	見慣れたものの用途を言う事ができる(5ま) 数の概念が分かる(5まで) 【遠城寺式 4歳4ヶ月】 左右がわかる 【遠城寺式 4歳8ヶ月】	折り紙で簡単な物を折る事が出来る リズムに合わせて楽器を鳴らす リズムに合わせてスキップする
おおむね 5歳	ジャンプグリズムに登ることができ 【津守式 5歳0ヶ月】 鉄棒で前回りができる 登り棒に登ることができ ケンケンパができる	ケンカの際、自分たちで解決しようとする 自分たちで決まり事を作ったり遊ぶ グループ活動を喜ぶ	身近な物を整理して大切に使う 身近な動植物の世話をす 公共の場での決まりや、マナーがわかる 積極的に外で遊ぶ	身の回りの出来事や自分の思いを保育者や友達にわかりやすく伝える 語りかけや問いかけに適切に対応する しりとりができる 【津守式 5歳6ヶ月】	昨日、今日、明日がわかる 由字と名前の区別がつく かるたでどちらが勝ったか数えで決める【津守式 5歳6ヶ月】 生活に必要な簡単な文字や記号が分かる	様々な素材や用具を利用して製作をする リズムの違いがわかり、それぞれの曲にあわせて歌ったり踊ったりする 家までの簡単な地図を作る 観察画を描く
おおむね 6歳	後ろ歩きができる ボールを上手にうけとる 速度を変えて走る 積極的に外で運動をする 器具や遊具を使い、工夫して、遊びを発展させる	リレー遊びができる 【津守式 6歳0ヶ月】 小さい子の面倒をみる 【津守式 6歳4ヶ月】 共同の遊具や用具を譲り合って使う	色々な行事を楽しむ 安全に気をつけて遊ぶ 泥団子を作る工程が分かる 一人で作ることができ 個人の物、共有の物が区別できる	伝言や質問、報告ができる 保育園や学校に行く道順を説明できる 【津守式 6歳0ヶ月】 人の話を注意して聞き相手にわかるように話す	楽器に触れ扱い方を覚える ハサミで切り抜きができる 役になりきって遊ぶ 音楽に親しみ、みんなと一緒に音色やリズムの楽しさを味わう	

料1に示すような「保育課程チェックシート」を作成した。そして「気になる子ども」に対して、年齢相応の発達ができているかということやどの領域にどのようなつまづきがあるか、発達の遅れがどのくらいあるかということについて実態を把握することにした。

ここでの発達にかかわるチェック項目の作成にあたっては、共同研究園の保育課程に取り上げている内容の内、80%の子どもがすでに達成しているものを取り上げることを基本にしなが、チェックする項目をピックアップしていった。

また、保育現場での支援ということに重点を置くために、大きな枠組みを保育指針に示された養護と教育の領域に分け、それぞれの発達段階の姿の特徴を配列していった。このとき、今後の幅広い支援体制を想定して、保育指針では設定されていない一歳という新しい段階を特別に設定することにした。また医学界や心理学界で広く一般的に使われている遠城寺式乳幼児分析的発達検査表や、津守式乳幼児精神発達質問紙、S - M 社会生活能力検査等の心理アセスメントの内容もできるだけ多く取り入れることにした。

資料2 - 1 行動チェックシート(3歳未満児)

	行動の特徴	ない	時々ある	常にある
ことば	会話が成り立たない			
	オウム返しがある			
	喃語がでない			
行動	多動である(部屋中を走り回る)			
	嘔みつく			
	物を投げる			
	奇声をあげる			
	追視しない			
	手をヒラヒラさせる			
	高い所に登ることが好き			
	人を突き飛ばす			
	急に飛び出す			
	指先を見つめることが多い			
	トラブルの場面ですごく奇声をあげる			
	言葉での表現がほとんどなく、泣き叫ぶ			
	身体が反り返るほどの力を入れて泣き叫ぶ			
	少しの間座って待つことができない			
常にウロウロしている				
こだわり	パニックを起こす			
	シールの貼り方にこだわる			
	特定のおもちゃに固執する			
	味覚過敏(特定の食べ物を絶対に受け付けられない)			
かかわり	指先の汚れが少しでも気になり、汚れがとれるまで次の行動ができない			
	目が合わない			
	呼名反応がない			
	後追いをしない			
	人の関わりに対して反応がない			
	指差ししない			
	無表情である			
	返事をしない			
	人見知りしない			
	初対面の人でもすぐに抱かれに行く			
	読み聞かせの場面で対面に座らない			

資料2 - 2 行動チェックシート(3歳以上児)

領域	項目	ない	時々ある	よくある
かかわり・こだわり	・視線が合いにくく人への関わりが乏しい			
	・集団に入らず一人遊びが多い			
	・興味や関心が狭く特定の物にこだわる			
	・自傷行為があったりパニックを起こしたりする			
	・周りの人が困惑するようなことも平気です			
	・手をひらひらさせたり飛び跳ねたり等常動行動がある			
	・音や色や匂いや味に対して敏感すぎる			
	・極端な偏食があり限られた物以外は受け付けられない			
	・触られるのを極端に嫌がる			
	・オウム返しや独特な声で話すことがある			
注意・集中	・注視できない			
	・ものごとに集中できず気が散りやすい			
	・遊びが長続きしない			
	・話を聞いていない			
	・注意を払えない			
	・言われたとおりのことができず指示に従えない			
動き・衝動	・ものをよくなくす			
	・気が散りやすい			
	・探し物を見つけれられない			
	・物忘れをする			
	・いつもそわそわしていて体を動かしている			
	・動きが激しく部屋から飛び出していつたりする			
	・走り回ったり高い所に登ったり跳び降りたりする			
	・周りが困るほどに騒ぐ			
	・目的の場所にいないことが多い			
	・話を最後まで聞けず途中でしゃべり出す			
・一番になりたがり反則をしても勝とうとする				
・他人の邪魔をしてルールを守れずトラブルが多い				
・突然飛び出したり物を投げたりする				
・気に入らないと嘔みついたり叩いたりと暴力を振るう				

2 行動が気になる子ども

発達全体としては、年齢相応の姿が見られるので、「保育課程チェックシート」では特段遅れているという面は見られないが、同年齢の子どもたちとは極端に異なった行動特性を見せる子どもがいる。特に集団行動を伴う保育の中では、その行動がトラブルを起こす原因になることが多く、スムーズに保育活動に入れなかったり、子ども同士のトラブルに発展したりすることも多く、保育者として「気になる子ども」がいるという事がわかった。

その気になる行動を取り上げて分類し、何がどの程度気になっているのかを共通の情報として整理したものが、資料2-1と資料2-2である。ここでは特に、3歳以上児については、資料2-2で示しているように発達障害との関連で「DSM-IV精神疾患の分類と診断の手引き」の項目等を参考に、かかわり・こだわりは広汎性発達障害（PDD）と注意・集中/動き・衝動は注意欠陥/多動性障害（AD/HD）と関連付けて作成し、医療との連携もはかれるように配慮した。

3 情緒面が気になる子ども

園生活を送る中で発達障害などの原因とは別に「母子分離が出来ない」「極端な甘え」「多動」「乱暴」等の行動をとる子どもが増えている。また、ひとり親家庭の増加、保護者の病気、家庭内不和、多忙化などにより子どもとの関わりが不足しているために情緒が不安定になっている子どもも増えてきている。このような家庭環境の変化や人間関係の緊張などが、毎日の子どもの生活と深く関連していることが明らかになった。

この、子どもたちの「気になる行動」はどこから来ているのか、その原因を探っていくと、そこには虐待、ネグレクト、家庭不和、離婚、多忙等の親子関係や家族関係の問題が浮き彫りにされた。そのような状況を少しでも改善し、子どもが安心して園生活を送れるようにするために、親子関係安定のための支援の必要性が共通理解された。ここでの具体的な対応については、年度当初作成していた「保育マニュアル」を大幅に見直し、保護者支援として必要になったものを付け加えていった。

なお、虐待やネグレクトに対しては、特に、大分市が配布している虐待対応マニュアルをもとに、共同研究園で情報を交換しながら「危機管理マニュアル」を充実していった。関係園で起こった虐待事例については、このマニュアルをもとに関係機関と連携して対応し、一時保護の処遇をしながら、母親の指導を継続的に行い、母親が母性を回復して、子どもの情緒が安定するように支援できるような協力体制もつくっていった。

4 医療的な面で配慮が必要な子ども

保護者の保育ニーズの拡大によって、医療的な課題を持っている子どもたちの保育希望が増えている。そのために様々な病気への対応を伴う保育が求められるようになってきた。共同研究園においても、緊急な発熱、各種感染症、川崎病、心臓病、アトピー性皮膚炎、てんかん、喘息、各種慢性疾患への投薬等多様な課題に直面している。特に新型インフルエンザに対しては、園全体が振り回されるような事態もたびたびあった。

また、近年においては、医療的なケアの必要な子どもの保育とともに病児保育に対するニーズも高まり、それら境界の子どもたちへの対応に対しても苦慮している現実もある。

Ⅲ 気になる子どもへの対応

1 発達をつまづきが気になる子ども

発達をつまづきのある子どもに対しては、まず、「保育課程チェックシート」により、その子どものつまづいている領域がどの年齢区分に相応するかを明らかにする。そして、その年齢をこの子の保育課程における発達年齢とするのである。それを基にして、その発達年齢に沿った保育課程、年間保育計画、月案、週案を用いることで、その子のつまづきに配慮した保育が出来るのではないかという仮説のもと、個別の保育計画を作成する。このとき、発達の遅れが、それぞれの領域によって異なることが考えられるので、領域別に一人一人の子どもの実態を丁寧に把握していくことが大切である。その際、ただ単に保育内容の年齢を下げるだけではなく、活動が生活年齢からかけ離れたものにならないようにするため同年齢の保育内容にも十分配慮する必要があることが分かった。

一方、言葉にかかわるつまづきや学習障害等については、内容が多岐にわたっており、対応も複雑であるので、今回は事例として取り上げず、別に「Q & A事例集」に特別な項目をたてて入れることにした。

【事例 1】 B児（男児・4歳8月） 年中児

B児は、療育手帳を持っており、混合クラスに入園した知的障害のある男児である。医師によってダウン症と診断されており、歩行が可能になったのは、3歳後半の頃であったという。園で活動の様子を観察してみると、階段やちょっとした段差は、援助がなければ昇ったり降ったりすることができず、まだ歩行が安定している状況ではなかった。本児はさまざまな面で発達において「気になる」つまづきが確認されたので、B児の発達の状態を客観的に把握するため「保育課程チェックシート」で、発達のチェックを行った。その結果を示したものが資料3である。この実態を生かして、適切な保育支援をおこなうために、B児には2歳児と3歳児の「年間指導計画」の内容を参考にして資料4に示しているような「個別の年間保育計画」を立て、対応することにした。

保護者もB児の発達上のつまづきと支援の必要性についてはよく理解してくれ、とても協力的であったので、園としてもB児に無理な課題は与えないよう、「慣らしの保育」をゆっくりと進める事が提案できた。そのため、B児も園の生活になじみ、喜んで園に通ってくるようになった。園では、なるべく慣れた一人の保育者が関わるようにし、安心できる環境作りに心がけた。

B児の気持ちを受容し、歩くときは常に横につくように、個別の配慮を行いながら保育を進めた。10月に行なわれる運動会へ向けて、他の子どもたちと共にかけてこの練習をすすめる中で、つまづいて座り込んだりすることも何度かあったが、友だちから声援をもらおうと、それに応えようとし、最後まで自分の足でゴールまで歩いて行くことができるようになっていった。食事に関しても、友だちと同じ机に座り、自分でスプーンやフォークを使って食べることができるようになっていっ

教育					
健康(運動)	人間関係	環境	言葉(話す)	言葉(理解)	表現
<p>1歳 【遠城寺式】</p> <p>・座った位置から立ちあがる</p> <p>・歩く、走るなどの移動運動をする 【遠城寺式 1歳2ヶ月 ~ 1歳6ヶ月】</p> <p>・足をそろえて階段をあがる 【遠城寺式 1歳9ヶ月】</p>	<p>・父や母の後追いをする</p> <p>・身近な人の仕事や行動を模倣する 【津守式 1歳6ヶ月】</p> <p>・自分より小さい子がわかる</p> <p>・気の合う友だちが出てくる</p>	<p>・物をひっぱったり、拍手をまねる</p> <p>・近くで遊ぶ友達や大人に気付き、近づく</p> <p>・物の出し入れをする</p> <p>・道具や玩具の使い方、遊び方がわかる</p>	<p>・言葉を1~2語、正しくまねる</p> <p>・3語言える 【遠城寺式 1歳4ヶ月】</p> <p>・絵本を見て三つのものの名前を言う 【遠城寺式 1歳9ヶ月】</p>	<p>・要求を理解する</p> <p>・簡単な命令を実行する 【遠城寺式 1歳4ヶ月】</p> <p>・目、口、耳、手、足、腹を指示する 【遠城寺式 1歳9ヶ月】</p>	<p>・なぐり書きをする</p> <p>・音楽に合わせて体を動かしたり、手遊びをしたりする</p> <p>・つまむ、たたく、転がすなど、手や指を使って遊ぶ</p>
<p>おおむね 1歳から 2歳未満</p>	<p>・友達の名前がわかり呼んだりできる</p> <p>・友達のお世話をしたがる</p> <p>・自分で出来ることは自分でしようとする</p>	<p>・自分の物と他人の物の区別がつく</p> <p>・保育者と一緒に玩具の片づけをする</p> <p>・歯をみがくまねができる 【発達子エック 2歳2ヶ月】</p>	<p>・二語文を話す 【遠城寺式 2歳0ヶ月】</p> <p>・絵本を見ながら繰り返しのある言葉を模倣し、言う</p> <p>・自分の名前を言える 【遠城寺式 2歳6ヶ月】</p>	<p>・「もうひとつ」がわかる 【遠城寺式 2歳0ヶ月】</p> <p>・大きい小さいがわかる 【遠城寺式 2歳6ヶ月】</p> <p>・長い、短いがわかる 【遠城寺式 2歳9ヶ月】</p>	<p>・水、砂、土などの自然の素材を使って遊ぶ</p> <p>・歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりする</p> <p>・見立てた物を使って遊ぶ</p> <p>・誰かのふりをしたりして遊ぶ</p>
<p>おおむね 2歳</p>	<p>・「こうしていい?」と許可を求める 【遠城寺式 3歳4ヶ月】</p> <p>・ごっこ遊びを楽しむ 【津守式 3歳6ヶ月】</p> <p>・遊具、用具を順番に使う 【遠城寺式 3歳8ヶ月】</p>	<p>・自分の物と他人の物の区別がつく</p> <p>・簡単な決まりを守る</p> <p>・屋外の決められた場所で遊ぶ 【発達子エック 3歳3ヶ月】</p>	<p>・挨拶や返事など日常生活での言葉のやりとりが不自由なくできる</p> <p>・「なぜ」「どうして」などの質問を盛んにする</p> <p>・簡単な伝言ができる</p>	<p>・赤、青、黄、緑がわかる 【遠城寺式 3歳0ヶ月】</p> <p>・高い、低いがわかる 【遠城寺式 3歳4ヶ月】</p> <p>・数の概念が分かる(3まで) 【遠城寺式 3歳8ヶ月】</p>	<p>・動物や乗り物などの動きを模倣する</p> <p>・自分の好きなものになりきって遊ぶ</p> <p>・砂を使って型抜きをしたり、お山をつくらせたりして遊ぶ</p>
<p>おおむね 3歳</p>	<p>・保育者の言うことや友達の見聞を聞く</p> <p>・自分のしたいことをはっきり言う</p> <p>・ジャンケン勝負がわかる</p>	<p>・色々な用具や器具に関心を持ち、大切に扱う</p> <p>・季節や天候による遊びの違いを知る</p> <p>・信号を見てきちんと道路を渡る事ができる</p>	<p>・身の回りの出来事や自分の思いを言葉に出して言う</p> <p>・文字、数字に興味を持ち、読む</p> <p>・日常生活に必要な挨拶をする</p>	<p>・見慣れたものの用途を言う事ができる</p> <p>・数の概念が分かる(5まで) 【遠城寺式 4歳4ヶ月】</p> <p>・左右がわかる 【遠城寺式 4歳8ヶ月】</p>	<p>・折り紙で簡単な物を折る事が出来る</p> <p>・リズムに合わせて楽器を鳴らす</p> <p>・リズムに合わせてスナップする</p>
<p>おおむね 4歳</p>	<p>・片足でけんけんをする 【津守式 4歳0ヶ月】</p> <p>・ブランコに立ちのりする 【遠城寺式 4歳4ヶ月】</p> <p>・タオルや雑巾をしぼることができる</p>	<p>・色々な用具や器具に関心を持ち、大切に扱う</p> <p>・季節や天候による遊びの違いを知る</p> <p>・信号を見てきちんと道路を渡る事ができる</p>	<p>・身の回りの出来事や自分の思いを言葉に出して言う</p> <p>・文字、数字に興味を持ち、読む</p> <p>・日常生活に必要な挨拶をする</p>	<p>・見慣れたものの用途を言う事ができる</p> <p>・数の概念が分かる(5まで) 【遠城寺式 4歳4ヶ月】</p> <p>・左右がわかる 【遠城寺式 4歳8ヶ月】</p>	<p>・折り紙で簡単な物を折る事が出来る</p> <p>・リズムに合わせて楽器を鳴らす</p> <p>・リズムに合わせてスナップする</p>

単元 期	4月 仲良く 1期(4~5月)	5月 温もり 笑顔で	6月 笑顔で	7月 好奇心 2期(6~8月)	8月 きらきらと 思いやり	9月 思いやり	10月 努力	11月 自信 3期(9~12月)	12月 楽しく	1月 元気に	2月 豊かに 4期(1~3月)	3月 希望
養護 ねらいを含む	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことを自分で行おうとする。 新しい環境に慣れ、安定して過ごす。 保育士の援助の下、身近な遊具に興味を示して楽しむ。 友だちに自分の気持ちを伝えようと、簡単なことはのやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に食事をすることに慣れる。 楽しい雰囲気の中で、こぼしながらも、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師に自分の名前を言おうとする。(2期より移動) 一人でトイレに行き、排泄をする。(3歳児) 	<ul style="list-style-type: none"> 援助されながら簡単な身の回りのことを少しずつしようとする。 保育士を交えながら、友だちと好きな遊びを楽しむ。 自己主張のぶつかり合いの中で、少しずつ相手の気持ちを気付け、練習する。 夏ならではのあそびを体験する。 スプーンやフォークを使って、自分で食べる満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な衣服の脱ぎ着を自分でしようとする。 食後の歯磨きやクチュクチュがいをする。 保育士に見守られ、安全な遊具の使い方をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 玩具や身の回りのある物の名称や使い方に関心を持つ。 保育士や友だちと一緒に水・砂・土に触れて遊ぶ。 保育士や友だちの名前と生活に必要な簡単なことがわかり、自分の思いを伝えて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな生活用具や素材に触れ、探索する。 保育士や友だちと一緒に簡単な遊びや触れ合い遊びをする。 楽しい雰囲気の中、友達や保育士と一緒に食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることに喜びを感じ、簡単な身の回りのことは自分でしようとする。 体をたくさん動かす楽しさを感じる。 身近な自然に触れながら、保育士や友達と遊ぶことを楽しむ。 しつくりとひとつひとつの遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なものも保育士に励まされながら少しずつ食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師に自分の名前が言え、お礼を言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の前・表裏に気づき、自分で直そうとする。 鼻水が出ていることに気づき、自分で拭こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に簡単な手伝いや片づけをする。 冬の自然現象に興味を持ち、触れて遊ぶ。 経験したこと、考えたことなどをことばで伝える。 繰り返しのある絵本や紙芝居などを見たり聞いたりして、イメージして遊ぶ。 いろいろな素材をちぎったり丸めたり、貼ったりして、好きな物を作る。 保育士や友だちと一緒に絵本の内容をイメージして、まねっこ遊びをして楽しむ。 箸を使い、こぼさず食べようとする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> 出さない所は保育士の援助を受けながら衣服の着脱を行う。 保育士に見守られながら、手洗いをする。 保育士と一緒に戸外遊びを楽しむ。 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。 自分の置き場所を知り、保育者と一緒に持ち物を片づける。 身近な春の自然に触れて遊ぶ。 挨拶や自分の要求を言葉や身振り、手振りで伝えようとする。 絵本や紙芝居を読んでもらったり見たりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な衣服の脱ぎ着を自分でしようとする。 食後の歯磨きやクチュクチュがいをする。 保育士に見守られ、安全な遊具の使い方をしようとする。 登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引く、叩く、捲く、転がすなど、手や指を使うあそびを楽しむ(1歳児) 生活には必要なルールがあることに気づき、保育者に促されたり譲ったりする。 散歩などを通して、身近な秋の自然物に触れて遊ぶ。 保育士や友だちと簡単なごっこ遊びをする中で、ことばのやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな素材に触れて感触を楽しんだり、パスで描いたりする。 保育士や友だちと一緒に体を動かしたり、踊ったりして楽しむ。 色々な食べ物を見る、触れる、口に入れてみるなどの体験を通して自分で食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な素材を使うことに興味をもち、できたものに意味づけをして遊ぶ。 友だちと一緒に歌ったり、踊ったり、体を動かしたりして、表現して遊ぶ。 ままごことや買い物ごっこを通して、食べ物への関心を深める。 								

た。言葉に関しては、友だちの名前を覚え、自分から友だちの名前を呼ぶ姿も見られるようになっていった。しかし、まだ、自分の気持ちを言葉で表現することは難しく、「いや」など、簡単な言葉での意思表示をするという段階にとどまっている。

2 行動が気になる子ども

行動が気になる子どもに対しては、資料2の2つの「行動チェックシート」を用いて行動のつまずきをチェックし、実際の生活の中でどこがどのように困っているのかを保育者間で共通理解するようにした。そして、一人一人の子どもの行動のつまずきに対して具体的な対応が出来るようにするため、これまでの経験や文献、人から聞いた話などを地区11園で集積し、資料5に示しているようにそれぞれの「気になる行動」に対する「Q & A事例集」を作成していった。このとき、それぞれの園では、子どもの「気になる」ことが見つかると、それを大判の封筒にその内容を書いて表示し、園の職員全員に助けを求めるようにした。それを見て支援のためのアイデアのある人は、そ

資料5

事例	食べ物に関して警戒心が強く口に入れようとしらない子 (男児：2歳11ヶ月)
予想される原因	<ul style="list-style-type: none"> 行動チェックによると「こだわり」「かわり」に10項目に「常にある」にチェックがあり、4項目に「時々ある」にチェックが付いている。また、「ことば」の項目でも「会話が成り立たない」などにチェックが付いていることからみて、自閉症スペクトラムの傾向性が伺える。 現在、2歳11ヶ月ということから年齢的には、まだ判断しにくい境界域にあるが、継続的に観察する必要がある。
保育者の対応	<ul style="list-style-type: none"> 事例としては食べ物に関する警戒心が課題にされているが、そのこととともに行動チェックリストで浮かび上がった幅広い項目についても配慮が必要になるであろう。 口への触覚防衛も考えられるので、口のポディーイメージを育てるために、一口サイドを提示していきながら、たくさん口に押し込んでいかないことを知らせて安心感をもたせるようにしていく。また、食事の時は常に保育者が側に付いていて、恐怖感を取り除くようにする。 口に物を恐怖感無く入れられるようになったら、奥歯にスティック状の物を乗せて、咀嚼を誘発したり、頬や上顎、舌の横や裏などを歯ブラシでタッチしたりして刺激を与えるようにする。 ここではあくまでも自閉症スペクトラムという可能性を考慮して、無理矢理に食べさせるということはないようにする。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 『保育心理』牧野桂一編 樹心社 『これでわかる自閉症とアスペルガー症候群』田中康夫 成美堂 『子どもの発達とことば・かず』牧野桂一編著 たちき書房

資料6

		行動の特徴		
		ない	時々ある	常にある
ことば	会話が成り立たない			✓
	オウム返しがある	✓		
	喃語がでない		✓	
行動	多動である(部屋中を走り回る)		✓	
	噛みつく	✓		
	物を投げる		✓	
	奇声をあげる			✓
	追視しない		✓	
	手をヒラヒラさせる	✓		
	高い所に登ることが好き	✓		
	人を突き飛ばす		✓	
	急に飛び出す	✓		
	指先を見つめることが多い		✓	
こだわり	トラブルの場面でしつこく奇声をあげる			✓
	言葉での表現がほとんどなく、泣き叫ぶ			✓
	身体が反り返るほどの力を入れて泣き叫ぶ			✓
	少しの間座って待つことができない		✓	
	常にウロウロしている		✓	
	パニックを起こす		✓	
	シールの貼り方にこだわる	✓		
	特定のおもちゃに固執する			✓
	味覚過敏(特定の食べ物を絶対に受け付けられない)			✓
	指先の汚れが少しでも気になる			✓
かわり	目が合わない			✓
	呼名反応がない			✓
	後追いをしない		✓	
	人の関わりに対して反応がない			✓
	指差ししない			✓
	無表情である		✓	
	返事をしない			✓
	人見知りしない		✓	
初対面の人でもすぐに抱かれに行く			✓	
読み聞かせの場面で対面に座らない			✓	

の答えを封筒に入れるのである。助けを求めた人は、その封筒の中に入れられている答えを仮説として受け止め、保育実践に取り組むのである。そのようにして対応のマニュアルを作成していったものが「気になる子どものQ & A事例集」である。通常では、具体的な対応に当たって、多くの職員がその「気になる子どものQ & A事例集」を活用しながら、日常の保育を行っている。

【事例 2】 B児（男児・1歳8月） 1歳児クラス

B児は、入園した当初は、園生活に慣れず1日を通して泣いている事が多く、欠席することも多かったため、その実態を十分にとらえる事が出来ずにいた。次の年度の7月に入り、園生活には慣れ、活動も他児と同じようにスムーズに入れるようになってきたが、それと同時に「目が合わない」「呼びかけても反応がない」「白ご飯は食べるが他の食材は極端に嫌がる」「午睡前、自分で髪の毛を抜き取り確認する」などの行動が目立つようになった。

そこで、B児の行動を未満児用の「行動チェックシート」でチェックしたところ資料6に示すように、「こだわり」と「かかわり」の部分で気になる行動が多いと分かり、「Q & A事例集」の中から適していると思われる事例を探し、対応して

資料7
いった。具体的には、資料5に示すように歯ブラシを使って、口を刺激し、口の機能を育てていくことを行った。

その結果、食べられる食材が増え、苦手な物も以前のように極端に嫌がることは少なくなった。

【事例 3】 D児（女児・5歳6月） 年長児

年度が変わって年長児となったD児は、入園以来、気になる行動が多くあった。しかし、父子家庭ということもあり、家庭内における「精神的な不安が原因かも知れない」とその都度、園での気になる行動と家庭生活とを関連させながら検討し対応をしてきた。しかし、就学を間近に控え、このまま就学させることに対して不安を感じた為、気になる行動をこれまでの担当者が話し合い、三歳以上児の「行動チェックシート」を用いて整理した。すると、資料7に見られるように「注意・集中」の項目の全ての項目が「よくある」となり、「動き・衝動」の項目においては、「よくある」が6項目で「時々ある」が2項目あり、合わせて8項目にチェックが入り、注意欠陥多動性障害と同じような傾向が確認できた。それ以外にも、排

領域	項目	ない	時々ある	よくある
かかわり・こだわり	・視線が合いにくく人への関わりが乏しい	✓		
	・集団に入らず一人遊びが多い	✓		
	・興味や関心が狭く特定の物にこだわる	✓		
	・自傷行為があったりパニックを起こしたりする	✓		
	・周りの人が困惑するようなことも平気です			✓
	・手をひらひらさせたり飛び跳ねたり等常動行動がある			✓
	・音や色や匂いや味に対して敏感すぎる			✓
	・極端な偏食があり限られた物以外は受け付けない	✓		
	・触られるのを極端に嫌がる	✓		
	・オウム返しや独特な声で話すことがある	✓		
注意・集中	・注視できない			✓
	・ものごとに集中できず気が散りやすい			✓
	・遊びが長続きしない			✓
	・話を聞いていない			✓
	・注意を払えない			✓
	・言われたとおりのことができず指示に従えない			✓
	・ものをよくなくす			✓
	・気が散りやすい			✓
	・探し物を見つげられない			✓
	・物忘れをする			✓
動き・衝動	・いつもそわそわして体をかきしている			✓
	・動きが激しく部屋から飛び出していつたりする			✓
	・走り回ったり高い所に登ったり跳び降りたりする			✓
	・周りが困るほどに騒ぐ			✓
	・目的の場所にいないことが多い			✓
	・話を最後まで聞けず途中でしゃべり出す			✓
	・一番になりたがり反則をしてでも勝とうとする		✓	
	・他人の邪魔をしてルールを守れずトラブルが多い		✓	
・突然飛び出したり物を投げたりする	✓			
・気に入らないと噛みついたり叩いたり暴力を振るう	✓			

泄の失敗が多く見られ、それに保育者が気付いて声をかけるまでは、下着が濡れたままでも気づかずに過ごしていたり、自分が着替えたかどうか、カバンの中を見なければ判断できないことがあったり、手にした物は、誰のものですぐに口に持って行って舐めたりと、基本的な生活習慣の発達においても気になる行動が多く、園だけの支援では十分な対応ができない面があることがわかった。そこで、さまざまな機会を通して専門機関との連携の必要性を保護者に説明していくようにすることを担当者間で確認した。

本児の性格は、明るく、人懐っこく、友だちの中にも自分から入っていけるので、その良い点を伸ばしつつ、気になる点を減らしていけるようにと、注意欠陥多動性障害といわれる子どもたちへの支援を集めている「Q & A事例集」を参考に、関係者で話し合いを持ちながら対応していった。また、本児については、小学校での就学児説明会において、専門機関との連携について特に指摘されたことをきっかけにして、保護者との面接相談を進め、療育センターとの並行通園をするようになった。

3 情緒面が気になる子どもへの対応

情緒面が気になる子どもへの対応としては、緘黙、吃音、チック、登園拒否等の問題と家庭の問題にかかわるもののが上げられてきた。ここでも緘黙等の問題については、「Q & A事例集」の中に項目を立てて対応マニュアルを作成し、事例を収集しながらそれぞれの保育者で共有して活用できるようにしていった。

一方、虐待やネグレクトが原因で情緒不安になっている子どもたちは、それぞれの子どもたちの家庭状況によって、対応の仕方が大きく変わるので、個々の子どもたちに合わせたきめ細かな対応が求められる。その際、保育者一人だけの判断ではなく、必ず他の職員と複数になって相談しながら対応するようにしている。また、家庭の問題や保護者自身に医療的な問題等がある可能性を念頭に置き、保護者への接し方、話し方には十分注意するようになった。

このような子どもたちに対しては、保護者からの情報以外には、その背景を知りえない場合が多いので、保育者がカウンセリングマインドを意識して聞き上手になり、保護者に話しやすい雰囲気を提供する事も重要だと考えている。

また、家庭に於いて子どもを観察する視点として、次に示すような「気になる子どもの10ないチェック」ということを提案して、日頃から家庭での子どもの様子について関心を持つように注意を喚起している。

- ①生気がなくておとなしい
- ②笑顔がみられない
- ③自己主張がない
- ④好奇心を示さない
- ⑤親から離れようとしめない
- ⑥外に出たがらない
- ⑦友だちの中に入れない
- ⑧食欲がない
- ⑨話しかけてこない
- ⑩手伝いをしたがない

4 医療的な面で気になる子どもへの対応

医療的な面での支援が必要な子が入園する際、面接において保護者と個別の話し合いを行っている。その話し合いの中で園において出来ること、出来ないこと、家庭での様子等を細部にわたり情報交換するようにしている。そして、園の職員全員がその子の状態を把握できるように医療的な情

報を共有化するための「保育マニュアル」にまとめ組織的な支援体制ができるようにしている。また、必要に応じて医師に相談したり、診断書を提出してもらったり、与薬依頼書への記入をしてもらい、事故を防ぐようにしている。その他に共同研究園においては、関係医療法人との連携のもとに医療的対応マニュアルを作成し、それぞれの病気の特徴や対応策が保育者にも保護者にも分るようにしている。

なお、医療的な面での「気になる子ども」の事例については、その数が多く多岐にわたり複雑で事例紹介に多くの紙数を必要とするので、今回は割愛し、次回を期すこととした。

IV 研究の成果と課題

本研究において、共同研究を行ってきた保育現場において、これまで漠然としていて明確になっていなかった「気になる子ども」に対するイメージが確立して共通理解が進み、子どもの実態に基づいたきめ細かな対応をしていくことが大切であるという意識変革ができた。また、これまでは、ばらばらであった課題を整理して、「気になる子ども」に対して視点をもって分類し、その対応を考えられるようになった。さらに、複雑な課題については、専門医に相談する、専門機関に相談する等、関係機関との連携を深めながら、日常保育の中でよりよい対応を探れるようになってきた。そして、何より「保育課程チェックシート」を活用することにより、一人一人の子どもの発達上の問題点が、細かくはっきり見えてくるようになるとともに、課題のある子どもたちに対して、保育者全員が具体的に対応出来るようになり、保育の質を高める事ができるようになった。

一方、療育機関などの専門機関による施設支援を受けたり、専門機関で子どもと一緒に療育活動を体験したりすることにより、担当保育者が専門機関を身近に感じられるようになり、必要に応じた連携がスムーズに取れるようになった。

また、「気になる子ども」の共同研究をきっかけにして、保育課程、年間指導計画、月案、週案、日案の活用が日常的に行われるようになり、計画の流れの捉え方や課題に対する指導計画への取り入れ方、及び個別の保育計画の活用等が、理解できるようになった。このような流れの中で、市全体でも大きな課題であった「保育要録」の記入についても、一人一人の実態を細かくとらえた記述ができ、小学校との連携を一層深めていくことができるようになった。

さらに、「気になる子ども」への対応を総合的に考え、それに対応するための手順を集めたA4版・150ページをこえる「保育マニュアル」を作成することができた。

保育に関わる内容は、多様で多岐にわたっている。そこでの研究であるために残された課題も多い。ここでは、それらの中の主なものを取り上げてみたい。

最初に、気になる子どもへの具体的な対応の「Q & A事例集」の中に、課題はあるけれども対応策として提示するに至らなかったものも数多くある。今後は、もっと幅広く共同研究の輪を広げ、これまで以上に情報交換を進めて、欠けている内容を補っていく必要がある。その際、具体的な事例に対する対応は、それぞれが異なっている場合が多いので、対応策は出来るだけ多様なものを多く集める必要がある。

次に、具体的な対応に対しては、まだ仮説の段階にとどまっています、最終的な検証の出来ていないものも多くある。今後は共同研究園で幅広く手分けして、その有効性について確認しながら方法を確立していく必要がある。このように仮説段階のものを継続して支援していくことで、具体的な支援方法を広げていくことができる。そのことが、一人一人の子どもへの支援を多様にするにつながり、結果として良い成長につなげていくことができるものと考えます。

また、保護者支援に当たっては、子どもの気になる部分について保護者との共通理解を図ることがきわめて重要である。この場合の子どもの課題に対する保護者への対応については、保護者との面接におけるカウンセリング的な対応が望まれることも多い。今後はカウンセリングやコンサルテーションの技法についても幅広く研究を深めていくとともに、保護者の信頼を得るために園全体での組織的、体系的な対応が求められる。

おわりに

本研究を通して、筆者も共同研究者として保育現場に身を置き、多くの子どもたちと直接関わる機会を与えられ、日々の生々しい現実に出会うことにより、さまざまなことを考え、さまざまなことを学ぶことが出来た。園に通ってくる子どもたち一人一人を大切に、その子に合った保育を実践することが子どもの成長を助け、日々の生活を豊かにするのだということに改めて気づかされる日々であった。

保育現場においては、子どもたちの「気になる」ことをそのままにしない。そのことが、そこの保育をより充実させるものであるという最も基本的なことであるということはこの実践的研究を通して確認することができた。今回の研究をこのようにまとめることにより、それを実現させるための一歩が踏み出せたのではないかと考えている。なお、本研究で取り上げている事例は全て、ブライバシー保護のため研究の主旨を曲げないように配慮しながら複合して作成したものであり、特定される個人は存在しないことをお断りしておきたい。

最後に、本研究に絶大な支援と協力をいただいたキッドワールド保育園園長並びに遠藤靖子先生をはじめとする研究同人の方々により感謝申し上げます。

参考文献・資料

- 牧野桂一編著『子どもの発達とことば・かず』たちき書房 2010
- 田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい、2009
- 田中康雄・木村 順監修『これでわかる自閉症とアスペルガー症候群』成美堂出版、2009
- 厚生労働省編『保育所保育指針 解説書』フレーベル館2008
- 田中康雄著『気になる子の保育 Q & A』、Gakken、2008
- 牧野桂一・山田真理子編著『「保育心理士」』樹心社 2007
- 高山恵子監修『育てにくい子に悩む 保護者サポートブック』、Gakken、2007
- 牧野桂一著『子らのいのちに照らされて』樹心社 2006

大分市保育部会編『新 大分市保育所保育課程』2005

財団法人 家庭保健生活指導センター編『子育て相談室』財団法人 家庭保健生活指導センター2004

市川宏伸監修『子どもの心の病気がわかる本』、講談社、2004

(まきの けいいち：日本語・日本文学科 教授)